

平成 24 年第 10 回 国家戦略会議後記者会見要旨（古川国家戦略担当大臣）

○ 日 時： 平成 24 年 9 月 18 日（火） 14:25～14:35

○ 場 所： 官邸エントランス

○古川大臣

本日は、さきに決定をいたしました「革新的エネルギー・環境戦略」につきまして御報告をし、意見交換を行いました。

委員の方々から、おおむね異論はないけれども、2030年代に原発稼働をゼロとすることを可能とするよう、あらゆる政策手段を導入するということに違和感があるというお話や、この全体の戦略のところがちゃんと矛盾なくなっているのかと、さまざま今回の戦略についての実現可能性や課題といったものについて御意見をいただきました。

また、長谷川議員からは、枝野大臣に対しては核燃料サイクルについて、そしてまた細野大臣に対しまして今後の人材の確保についての御質問があり、枝野大臣からは、核燃料サイクルについては従来どおり、引き続き推進していくということ、そしてまた細野大臣からは、人材の確保については、国が責任をもってしっかり確保するための方策というものをきちんと示していきたいというお話がございました。

大体、御報告は以上でございます。

○記者

総理からは特に御発言は。

○古川大臣

総理は最後に御発言をいただきました。

○記者

日曜日に総理がテレビ出演され、道筋を年末までにはつくるという御発言があったと思うのですが、その道筋のあたりについて、特に何かありましたでしょうか。

○古川大臣

特に今日はございません。

○記者

違和感というのは、どなたからどういった意味での違和感と表現されたのでしょうか。

○古川大臣

違和感というのは、長谷川議員のほうからです。ほかの部分と比べて、この2030年代に原発稼働ゼロを可能とすると。そこの部分にすごく違和感があるというお話をいただきました。

○記者

それは経済に対する影響という点からの発言だったのでしょうか。

○古川大臣

経済というか、全体的にここだけが少しほかのところと整合性がとれないのではないかというお話であったと理解をいたしました。

○記者

閣僚の方からは、違和感ではないですけれども、方向性についての疑問とか、注意点とか、そういった意見というのは出なかったのでしょうか。

○古川大臣

川端大臣のほうから、この原則はどこまでこれが具体的なものなのかというものについて、もう少し具体的にちゃんと説明をしていかなければいけないのではないかというお話はございました。

○記者

古賀議員からは、何か発言はありましたか。

○古川大臣

古賀議員からも、基本的には長谷川議員と同じように、種々のお話はございました。

○記者

それは30年代にゼロというのは、問題があるという意味ですか。

○古川大臣

問題があるというか、このところが少しほかのところと比べて違和感があるという趣旨の御発言でございました。

○記者

今日出席した民間議員は何人ですか。

○古川大臣

お2人でございます。

○記者

2人の議員から反対が出たということについて、どう考えていらっしゃいますか。

○古川大臣

反対といいますか、建設的な御意見をいただいたと思っております。私どもは、これは最後に総理も申し上げましたけれども、大きな方向性を示すと同時に、これは状況に応じた柔軟性を持つということでもあります。まさにこれから戦略を具体化する中では、しっかりそうした、きょういただいた意見も踏まえつつ、足下から具体的な戦略を立てていく。そうした努力をしてみたいと考えております。

○記者

今回、米倉会長が戦略について反対する意思を記者会見されて表明されています。そのために国家戦略会議は欠席されました。そのことについての受け止めはございますか。

○古川大臣

欠席をされた理由については、特に承知はいたしておりません。御都合がつかないという報告を伺っております。

○記者

その記者会見の中で、戦略に対して批判的なことをおっしゃられた上で、国家戦略会議の議員を辞めることも検討しているとおっしゃられましたが、そのことについてはいかがでしょうか。

○古川大臣

聞いておりませんので、今は特にコメントすることはございません。

○記者

すみません、確認なのですが、きょうの国家戦略会議で「エネルギー・環境戦略」は、ただ意見を聞いただけですか。それとも了承を受けたといったことはあるんですか。

○古川大臣

特にそういう了解とか、了承とかではなく、御報告をさせていただいて、御意見を伺ったということであります。

○記者

次に、閣議決定のスケジュールとかはどのようなふうにお考えですか。

○古川大臣

あす、閣議決定の予定であります。

○記者

今日、2030年代に原発ゼロという戦略の根幹に関わる部分について疑義が呈されたわけですけれども、それは今後の閣議決定、あるいはそれに全く影響はしないということでしょうか。

○古川大臣

やはりきちんとこうした大きな方向性を示した上で、不断の見直し、検証というものを行っていく。そうした姿勢をきちんとお伝えしていく、説明するということが大事ではないかと考えております。

○記者

矛盾があるのではないかという御指摘があったということなのですが、核燃料サイクルを続けながら、その原発ゼロを目指すという方向性についての御指摘ということでは

すか。

○古川大臣

特に個別のところと、そこと直接ということではなくて、全体的にそういうお話をいただいたと私は理解をいたしました。

○記者

川端大臣からは、どこまで具体的なのか説明する必要があるというのは、どの部分についてのことでしょうか。

○古川大臣

原則について、きちんと説明をしていく必要があるのではないかというお話があったということでございます。

○記者

整合性がとれないということに対して、総理は何か返答されたのでしょうか。

○古川大臣

特に総理からは御発言はございません。

以 上